

ICTを活用した 単身高齢者あんしん見守り実証事業

<共同事業者> 福岡安全センター株式会社



事業概要

背景・目的

市の推計では、2015年に83,000世帯であった単身高齢者世帯が、2025年には119,000世帯となり、その後もさらに増加していく見込み
単身高齢者が増加を続ける中で、見守りを担う地域の負担も増大しており、ICTを活用した見守りの普及などが必要となっている

そこで、これらの課題解決につながる提案を募集したところ、福岡安全センター株式会社より、見守りから安否確認までを一体的に実施し、単身高齢者の在宅生活の不安感と地域の見守りの負担感の軽減を目指す事業の提案があり、共同実施した

事業内容

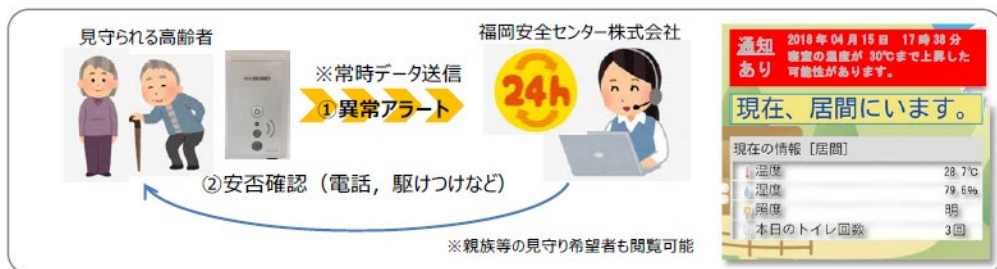
- ① 温度・湿度等を感知するセンサーを自宅に設置
- ② 安全センターに、常時センサーのデータを送信し、温度・湿度・照度等が予め設定した値を逸脱するとアラート（警報）が出される
- ③ アラートを感知した安全センターが、電話連絡や訪問により安否確認を実施

事業期間

2019年8月5日～2020年9月30日

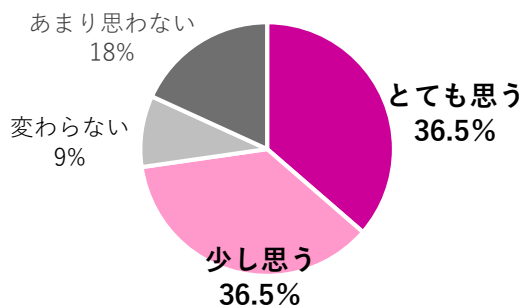
対象者

市内に居住している単身高齢者



結果

センサー利用により安心感が生まれたか？



約73%の人が見守りセンサーを利用することで、安心感が生まれたと回答した

参加者・事例など

- ✓ 11人の単身高齢者が参加
- ✓ 一日の中で、トイレの回数と滞在時間がいつもより長くなっている異変に気づき、対象者の家族に確認することで、**検査入院につながった**
- ✓ 温度変化に鈍感になっている対象者の家族に、室温が32℃になっても窓を閉め切っている状況を通知し、**熱中症の危険を事前に把握できた**

今後の展開

事業成果等を幅広くPRし、ICTを活用した見守りの普及を促進することで、単身高齢者が安心して在宅生活を続けられる環境づくりにつなげていく